

神のみこころ

(主日——午前の第二の部)

メッセージ 8

集会して神のみこころを知り行なう

聖書：マタイ 7:21. 12:50. 18:20. エペソ 3:8.

コロサイ 1:12. I コリント 14:26. ヘブル 10:25

- I. 集会することは、神のみこころを知り行なうことです。地上でのわたしたちの目標、目的は、御父のみこころを行なうことであり、わたしたちがこの事を行なうのは、召会の集会に来ることによります——ヘブル 10:25。
- II. わたしたちが認識する必要があるのは、主と共にあるわたしたちの内なる命以外に、召会の集会ほど、極めて重要で、重大で、益になるものはないということです——I コリント 14:23-26：
- A. 「エクレシア (ekklesia)」というギリシャ語が示しているように、召会（神の住まい）は、召し出された人たちの集会、あるいは会衆です——マタイ 18:17-20：
1. 召会は、信者たちの集まりであり、集合した人々の集会です。
  2. 神の召し出された人たちが共に集会するとき、これが召会です——使徒 2:42. 8:1.
  3. わたしたちの御父は、わたしたちが共に集会するようにあらかじめ決めました。集会に来ることは、神のみこころです——エペソ 1:5. ローマ 8:29. I コリント 14:26.
- B. クリスマン生活は、集会生活です——ヘブル 10:25. I コリント 14:23-26：
1. わたしたちが受ける恵みの多くは集会の中にあり、主が行なっている働きの多くも集会の中にあります——使徒 4:33. 13:1-2.
  2. クリスマン生活は集会生活であり、また主の働きの多くは集会を通して遂行されるので、わたしたちは集会を非常に重要なものと考えべきです——ヘブル 10:25.
- III. 神は集会の中で、ご自身のみこころをわたしたちに知らせます——詩 73:16-17：
- A. 神のみこころを行なうことは、神のみこころを知ることにかかっています——ヨハネ 7:17。
- B. わたしたちの集会には、その水面下にすばらしい多くのものがあり、そのうちの一つは、神のみこころを知ることです。
- C. 詩篇の作者は神の聖なる所へと入った時、神のみこころを知ることができました——詩 73:16-17：
1. 神の聖なる所、すなわち、神の住まいは、わたしたちの霊の中に、また召会の中にあります——エペソ 2:22. I テモテ 3:15.
  2. わたしたちは神の聖なる所へと入るために、わたしたちの霊に戻り、また召会の集会に行く必要があります。
  3. いったん、わたしたちが聖なる所（霊の中また召会の集会の中）にいるなら、自分の状況についての別の見方、特別な理解を得ます——詩 73:16-20.
  4. 神の道は、神の聖なる所の中で知られます——17 節：

- a. わたしたちの霊の中で、また集会の中で、わたしたちは神聖な啓示を受けます——啓 1:10. エペソ 1:17-18。
- b. わたしたちが霊を活用し、召会の集会に参加するとき、神の道はわたしたちに明確になります——詩 73:17。

IV. 神のみこころはキリストの中にあり、キリストに集中しており、キリストのためであるので、またキリストは神のみこころにおいてすべてであるので、わたしたちは集会の中でキリストを展覧することを通して神のみこころを行ないます——コロサイ 1:9, 15-18, 12. 3:4, 11. I コリント 14:26 :

- A. わたしたちに対する神のみこころは、わたしたちがすべてを含むキリストを経験し、享受して、彼をわたしたちの命として生きることです——コロサイ 1:9, 15-18. 3:4, 11。
  - B. わたしたちの集会は、キリストを展覧することです。ですから、わたしたちは集会に来るとき、自分が享受したキリストを携えて来る必要があります——I コリント 14:26。
  - C. 正常な召会生活は召会の集会にかかっており、すべての聖徒はその中でキリストと彼の計り知れない豊富を展覧します——エペソ 3:8。
  - D. わたしたちの集会の目標は、キリストを展覧することであり、クリスチャンの集会は、わたしたちの日常のクリスチャン生活の展覧です——I コリント 14:26. 参照、申 12:5-7, 13-14。
  - E. わたしたちが集会の中でキリストを展覧するのは、ささげ物の実際としてのキリストを神にささげて、神と共にキリストを享受することによってです——ヘブル 10:8-10, 25. 13:20-21。
  - F. わたしたちは集会の中で機能して、キリストを展覧する必要があります——コロサイ 1:12. I コリント 14:26 :
    - 1. キリスト教の影響のゆえに、多くの信者たちは集会の中で責任を担っていません。
    - 2. わたしたちが集会に参加しても、その集会に対して責任がないという観念は、根本的に間違っています。これはサタンの策略であって、キリストのからだの肢体を役に立たなくさせ、それによって彼らが機能しないようします。
  - G. わたしたちはクリスチャンとしてキリストの肢体であり、わたしたちの最も重要な奉仕は集会することです——12:4-11, 14-27. ヘブル 10:25 :
    - 1. 召会の集会は、キリストを展覧する最高の機会です——コロサイ 3:11。
    - 2. わたしたちはクリスチャンとして、集会でキリストを展覧する使命を受けており、こうして、神のみこころを行ないます——マタイ 7:21. 16:18. エペソ 3:8. コロサイ 1:12。
    - 3. 「父に栄光帰し、御子を高く上げ、[集会の] 必要満たすため、展覧しよう、主を」(詩歌 624 番 8 節)。
- V. 御父の永遠のみこころと彼の心の願いが、キリストのからだとしての召会を建造することであるので、わたしたちは集会する聖書的な道にしたがって、集会の中で機能することによって、彼のみこころを行ない、からだを建造します——マタイ 7:21. 12:50. エペソ 4:16. I コリント 14:26 :

- A. 信者たちの集会は、常に神の新約エコノミーと結び付けられているべきです。わたしたちは、神聖なエコノミーのビジョンをもって集会に来るべきであり、わたしたちが集会の中で語る事は、神のエコノミーを中心とすべきです—— I テモテ 1:4, エペソ 3:9, I コリント 14:26。
- B. 主の思いにしたがった回復とは、主の信者たちを聖職者・平信徒制度から連れ出し、これらの制度を、集会し奉仕する聖書的な道で置き換えて、キリストのからだを建造することです—— 26 節, エペソ 4:12, 16。
- C. 主は、すべての人が機能する相互性の召会の集会を回復して、キリストのからだを建造することを願っています—— I コリント 14:4 後半, 24 前半, 26, 31 :
1. わたしたちは召会の集会に来るとき、主からのものを持って他の人たちに分け与えるべきです—— 26 節。
  2. わたしたちは集会に来る前、わたしたちが主を経験したことを通して、あるいは主の言葉を享受したと祈りの中で主と交わったことを通して、主からのものと主のものを持ち、集会のために準備すべきです。
  3. わたしたちは、わたしたちの良き地であるキリストの上で労苦しなければなりません。それはわたしたちが彼の豊富からいくらかの産物を収穫し、召会の集会にもたらし、ささげるためです——コロサイ 1:12, エペソ 3:8。
  4. こうして、集会はキリストの豊富の展覧となり、またすべての参加者と共に、神の御前で、神と共に、キリストを互いに享受するものとなり、聖徒たちと召会を建造します—— I コリント 14:26。
  5. わたしたちが召会の集会の中で行なうことは何であれ、聖徒たちと召会を建造するためでなければなりません—— 3-5, 12 節。
- D. わたしたちは集会し奉仕する聖書的な道を実行するとき、預言することを強調します。預言することは、召会を建造するための卓越した賜物です—— 1, 4 節後半, 24-25, 31 節 :
1. I コリント第 14 章における預言することの意義は、主のために語り出すこと、主を語り出すこと、さらには他の人たちの中へと主を語り込み、供給し込み、分与し込むことです。神聖な分与という意味から言えば、全聖書はすべての人が預言することで完結します—— 3, 24-25, 31 節。
  2. 預言すること、すなわち、神を内容として、神のために語り、神を語り出すことは、聞く人たちに神を供給し、彼らを神へともたらしめます—— 25 節。
  3. 神は、一人一人の信者が預言すること、すなわち、彼のために語り、彼を語り出すことを願っています—— 1 節後半, 31 節, 参照、民 11:29。
  4. 預言することの特徴は、キリストを供給して、キリストのからだとしての召会を有機的に建造することです。預言することは、召会を建造するための特別な賜物です—— I コリント 14:3-5, 12, 24, 26。